

第44回 学校評議員会 会議録

令和2年7月20日（月） 14:00～15:30

弘前高等学校 応接室

出席者 評議員 4名…赤石茂、中根明夫、川村能人、前田一隆、須藤美恵子
学校側 校長、教頭（司会）、事務長、教務主任、生徒指導主任
進路指導主任、教務部員（記録）

1 学校評議員委嘱

2 自己紹介

3 校長挨拶

校長 : 新型コロナウイルス感染症に翻弄された4ヶ月でした。学校再開後すぐの休業、ねふた運行中止の決定、生徒がいない学校でどこか宙に浮いたような気持でいた。5月の連休明けに登校、部活動が再開し、先日本校では校内総体、2年生女子によるクラスダンスの発表会を行った。生徒の声が響き渡り、学校のあるべき姿に戻ることができた。また、普段の生活があることのありがたみを感じることができた。もう一度、原点に立ち返り、生徒の持っている才能を引き出すための教育活動を行いたい。そのために、皆さんから忌憚ない意見を頂きたい。

4 校内一巡（授業参観）

学校側参加者と共に総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の授業の様子を参観した。

5 意見交換 『令和2年度学校経営方針』について

校長 : 私が赴任してから3年目になるが、大きな変化はない。今日は私が考える学校教育の目標と、進学校として弘前高校に何が求められているのか、そのために何ができるのかということをお話したい。
学校教育の目的は人間形成にあると考える。そのため、「校長の思い」ということで書かれているが、当たり前のことが当たり前にできるように「凡事徹底」、また、「失敗を恐れず」に何事にもチャレンジしてほしい、共生社会を作るという観点から「思いやりの心」を持つ

てもらいたい。これらのことを一貫して話してきた。これら3つを意識しながら、学業、部活動、行事と様々な活動に取り組むことで、一兎のみならず二兎も、三兎も追いかけてもらいたい。そして、知・徳・体のバランスの取れた生きる力、つまり確かな学力、豊かな心、健康な体力を身に付けてもらいたい。

弘前高校は進学校と言われるが、子どもたちには世のリーダーとして、社会全体の中で人々が幸せに過ごすことができるように導く人になってもらいたい。そのために、自らの資質、能力を引き出さなければならない。そして、生徒自らが学部学科を研究し、自らの資質、能力に合う学部学科を見つけていかなければならない。それに向けて、我々教員は、成績に応じて生徒を割り振るのではなく、生徒の資質、能力を見極めた上で指導していかなければならない。そのためには、我々教員も学部学科を研究していかなければならない。特に理系に関しては細かいところまで知識を持っておかなければならない。また、難関、超難関大学の指導もできるように、入試問題の研究にも励むように話をしている。

加えて、どの学校にもいるが、弘前高校にも中学校の時はリーダー性を発揮していたが、そういう子どもたちが集まる中で、実力を発揮できずにくすぶっているような生徒もいる。しかし、そういう子どもたちにも光るものがあるのだという意識を持ち、子どもたちの良いところを見つけて、褒めて、伸ばしていくという接し方をお願いしている。

そして、3年後には弘前高校に入ってよかったと思えるように、また、先生方への感謝の気持ちを持って先の舞台へ巣立っていけるような指導をお願いしている。

教頭 : 令和元年度の学校評価結果報告書についてお話をさせていただく。昨年度の第二回の学校評議員会を経て、学校関係者評価の欄をまとめたのでお伝えしたい。

まず、昨年度は、1. 確かな学力、2. 豊かな人間性と社会性の育成、4. 重点校としての任務の遂行について達成度を A とした。3. キャリア教育の推進については、卒業後の進路だけでなく、生きること、働くことの意義を理解した上で、自分の将来を考えられるように指導していくために、より一層力を入れて取り組みたいという観点から達成度を B とした。

教務部 三上 : 教務の年間努力目標は資料にある通り7項目ある。その詳しい資料が11ページにあるので、ご覧いただきたい。まず1・2・7に共通することとして、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな変更、行事实施の可否、行事ができない場合は授業の組み直しが必要となった。校内巡視の際に質問があったが、授業の進捗については夏休み前までにはほぼ例年通りの進捗を取り戻せる。また、校長の指示で、第二波に備えてオンライン教材への取り組みも進め、各教員のスキルアップを図っている。

3つ目の項目について、例年、精神的に弱い部分があり、心が折れやすい子もいるが、スムーズに学校生活になじめるように初期指導を導入して3年目を迎えた。実施の中で様々な反省等も出てきているので、もう一度内容を精査し、次年度につなげていきたいと考えている。

保護者に対する授業の公開は、コロナ禍の影響で実施できていない。秋は状況が許せば実施したいと考えている。また、中学生へ向けた学校説明会は密を避ける観点から、例年1回を2回に分けて実施する予定である。

4、5の項目については記載の通りに進めていきたい。

生徒指導部 成田 : まず、年間努力目標の1(4)を今回のコロナ禍に対応して追加した。詳しい資料が12、14ページにあるので合わせてご覧いただきたい。今年度は様々な行事が中止になったことで、例年行っていることの中でできなかったことが多い。そのため、行事を通して行ってきた人間性の育成という面で不安もある。4月に情報モラル教室をオンラインで実施したが、やればできるものだなということが分かった。部活動の春季大会、高校総体、ねぶた運行と中止になり、生徒の学校生活が勉強だけになって暗いかなと心配していたが、先日、校内総体を実施したが、生徒の様子を見ていると、これまでできなかった分なのか、非常に生き生きと活動していた。9月には運動会も実施する予定でいる。

進路指導部 寺山 : 令和2年度の重点目標は1から4まであり、それぞれ(1)から(3)まで細かな取り組みを記載している。取組というところが実際に行うことを記載している。

1番について、今年度はできたものとできなかったものがある。進路講話は3つの学年を集めることができなかったため、1学年のみで体育館で実施した。医学ゼミナールは、救急救命で有名な八戸市立病

院の今先生を招いて、弘前高校の医学部医学科を志望する生徒を対象に実施した。他校には LIVE 配信を行った。校内模試は1回目を実施することができなかったが、第2回、第3回はしっかりと実施していきたい。

2番の進路研究・アウトプット体験を通して人間力を高める指導に取り組むについて、勉強もちろんだが、ICT 機器を活用しながら、自分を表現する力を高めていく必要があると考え取り組んでいる。

3番目について、現3年生が大学入学共通テストを初めて受けることになる。これまで内容を分析しながら準備してきたが、それを実際の指導に生かしていこうということで実施している。

4番目について、様々な事業を活用し、弘前高校だけでなく近隣の高校の生徒も一緒に力をつけていこうということで実施している。医師を志す高校生支援事業などを、ワークショップを取り入れながら実施している。

最後に、進学校として、青森県・日本・世界で活躍できる人材を育てるということだが、勉強だけでなく、相手を思いやることができるような心も育てていきたいと考えている。また、今年度はコロナ禍でできないこともあるが、生徒の安心安全を考え、生徒の健康と命を守りながらできることをしっかりと実施していきたい。

16ページは昨年度の3年生の受験の状況、17から19ページは現在の1～3学年の進路志望の状況をまとめたものである。毎年、東北大学を志望する生徒が多い、また学年が上がるにつれてより具体的な学部学科を意識して、様々な大学に分かれていく。20から22ページには学習状況調査をまとめている。高校に入ったときは、英語・数学に自信があるが、難しさ、深さを認識し、さらにやらなければという考えを持つようである。23から27ページには同じく学習状況調査の中から、スマートフォンの使用等と成績の関係性についてまとめている。2年生くらいになると、スマートフォン等の使用を考えなければ、学習もきちんとできないということが表れてきている。

年間行事予定表も添付したが、中止等例年と異なっていることが分かると思う。進路参考資料も配布している。毎年情報をまとめているもので、外部に公開できるデータをまとめたものである。

教頭 : これまでのことに関して質問があればよろしくお願ひします。

評議員 須藤氏 : 子どもが在学していた時から、学校カウンセラーがおり、カウンセリングを実施していることは承知していたが、実際に何人ぐらい利用

しているのか知りたい。

教頭 : 毎回6組程度の利用はある。生徒だけ、保護者だけの場合もあるが、両方一緒という場合もある。多い方であるという印象を持っている。

評議員 前田氏 : 情報モラル教室はどの学年を対象としたものか知りたい。

生徒指導部 成田 : 1学年の生徒を対象としたものである。

評議員 前田氏 : 生徒からの質問等もあるものか？

生徒指導部 成田 : 画面上で講師からの問いかけもあり、それに挙手する形で答えたりしていた。

評議員 須藤氏 : オンライン授業の場合は家と学校をつなぐのか？息子が大学で実際にオンライン授業を実施すると、つながらなかつたり、サーバーが落ちたりといったことが多い。システム上の問題も見られた。

校長 : 双方向のオンライン授業ではなく、動画等を作成し、それを見てもらう形式である。

評議員 須藤氏 : オンデマンド形式ですね。

教頭 : 実際にやってみて様々な問題に対応していきたい。

校長 : 9月に開校記念講演をオンラインで実施する予定である。文化会館から本校に映像を飛ばしてできるかどうかをやってみる予定である。

評議員 川村氏 : 修学旅行の方面と日程はどうなっているのか。

校長 : 京都、大阪、奈良方面で、4泊5日の予定である。

評議員 川村氏 : 京都のお寺が、現在人が入らず大変な状況であるようだ。

校長 : コロナ禍の第2波等が来れば実施できないだろう。2月への延期も検討したが、様々な問題が生じるため得策ではない。また、現時点で行かせたくないとする保護者もいると聞いている。

評議員 川村氏 : 中止、中止と続くと子どもたちがかわいそうだと思う。

教頭 : コロナウイルス感染症の拡大状況、保護者の状況を見て対応していきたい。

教頭 : 評議員の皆様からご意見を頂きたい。

評議員 赤石氏 : 生徒が皆マスクをしていた。一時、入手できない不安等があったが、何かあったときには対応できるように備蓄等しているということで大丈夫か。

教頭 : そのようにしている。

評議員 赤石氏 : 学校である程度余裕を持っていれば安心できる。

- 評議員 中根氏 : これまでに、熱、その他の症状で休んだ生徒はどのくらいいるのか。
- 教頭 : 各学年で1日5、6人おり、出席停止の扱いとした。
- 評議員 中根氏 : 受験生への対応はどのようにするのか。
- 教頭 : 先ほど教務部からあったように、授業の進度はおおよそ大丈夫であると聞いている。学年からも生徒は落ち着いて対応していると聞いている。
- 評議員 中根氏 : 今冬にどのような状況になるのか、それによって影響が出るのではないか。3年生がかわいそうに思う。1年生も入学後すぐに部活ができなくなり、コミュニケーション等取れないなどの問題もあるのではないかと懸念される。
- 教頭 : 生徒への心理面にも気を付けながら進めていきたい。
- 評議員 川村氏 : 今後、学校で授業ができない可能性がある。Z o o m教室のようなものの充実、また、それに伴う生徒の心のケアをお願いしたい。
- 評議員 前田氏 : ほとんどコロナ禍の話になるが、行事が軒並み中止となり、豊かな人間性の形成が難しくなっていると思う。その中で実施できるものの中で少しでも生徒にとってプラスに働くように取り組んでもらいたい。全くやらないというのは簡単だが、どうすれば実施できるのか考えることも大事だと思う。来年度以降も踏まえて、生徒も大変だが、先生方の研修等もできずに大変かもしれないが、頑張ってもらいたい。
- 評議員 須藤氏 : 母親目線から話をさせてもらおうと、昨年9月に衣替えがあり、玄関で靴を履きながら家を出る子どもの背中が、いつの間にか大人になっていたと感じる瞬間があった。一人の人間対人間として、立ち位置が水平になったと感じた。弘前高校の校風が子どもを大人にしたんだなと感じた。行事、その他様々な取り組みが子どもたちを成長させるのだと思う。生徒と先生方で、現状の大変さを考える中で、成長することもあるのではないかと思う。大変だと思うが、頑張ってもらいたい。
- 教頭 : 一人一人の御意見を繰り返し考察し、今後の取り組みに生かしていきたい。今日はありがとうございました。